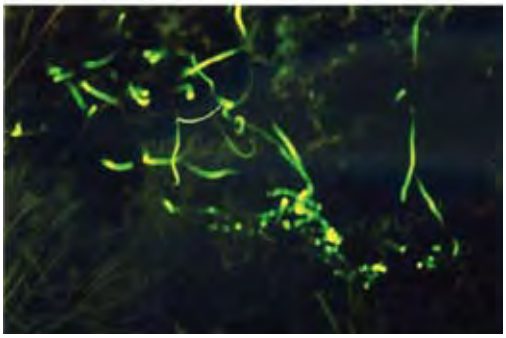
農地・水・環境保全向上対策

源氏ホタルの育成（農地・水・環境保全事業・生態系保全）
コスモスの里比自岐保全協議会


祭会場の様子


ホタルの光

当地区のホタル祭は、本年度で第12回を数える。12年前は、上野ホタルの会が行っていましたが、第2回から比自岐地区と上野ホタルの会が共催の形で実施してきた。平成19年度からは、農地・水・環境保全事業（生態系保全）として今年度まで実施してきました。

当地区のホタルの育成は、平成8年の農業集落排水事業推進から始まった。生活雑排水・農薬などでホタルなど水中生物が全滅状態であったので農業集落排水事業を推進して地区の南北に流れる比自岐川・御代川を以前のような清流に戻すことを地区住民に訴え連夜集落座談会を開催し、木津川・淀川の源流である比自岐川・御代川をきれいにすることが当地区住民の義務であると考え、推進を図った。さらに滝川ダム完成による上水道の供用とともに農業集落排水事業が完成し徐々に河川にホタルのえさになる川螯(カワニナ)が生息してきた。そうするとホタルが年々増加し昭和年代のような夜の風物詩が復活した。

ホタルの育成は、平成18年までは比自岐小学校生徒が面倒をみてくれたのが、小学校の統合により以降は地区公民館長がその育成に毎年6月末から翌年の3月中旬まで写真のような幼虫を見守っていてくれています。3月中旬の幼虫の放流を地区保育所園児の手で行って6月中旬のホタルの乱舞が見られます。今年度も6月11日（土）小学校体育館を会場に環境の話・影絵・バザーなどを開催し地区内外より500人余の皆様が当地区へ訪れ初夏の一夜を楽しんでいただきました。

今後も比自岐の里がいろんな動植物が生育できる村造りに励んで参ります。


幼虫


放流時の幼虫


保育園児による放流 3月上旬

「田んぼアート in 榊原」が開催されました。



田植えの状況



ヘリコプターから苗の投下

6月12日（日）に、田んぼアート in 榊原と榊原みずすまし会（農地水の活動組織）の主催で、「田んぼアート in 榊原」が開催されました。3色の稲で田んぼに巨大な絵を描く、「田んぼアート」の田植えイベントです。絵柄は地元の小学校で公募し、「がんばれ日本」のメッセージと笑顔の少女の絵柄を提案した榊原小学校5年西川天海さんの作品が採用されました。久居農林高校の生徒も準備段階から参加し、絵柄を田んぼに描くための測量や田植えに汗を流しました。

当日は、ラジコンヘリコプターから苗を投下するセレモニーが行われ、榊原みずすまし会の山川会長の挨拶の後、田植えが始まりました。応募して津市内外から参加した約100名の親子連れをはじめ、地域のみなさんや高校生など、多くの方に参加いただき、知事や地元選出議員も応援に駆けつけるなど、賑やかなイベントになりました。田んぼアートは、7月初旬には絵柄が鮮明になり始め、8月いっぱいまで楽しめます。9月下旬には、稲刈りイベントも開催する予定です。

みなさまも、是非、榊原の田んぼアートをご覧ください。



山川会長の挨拶



田植えの状況